

湧水湿地

久々利周辺の丘陵地には、硬い岩盤や粘土層が不透水層となり地表に水がしみ出している湧水湿地が点在しています。その湿地は特有な環境を保っているためハッチョウトンボやサギソウを始め稀少な生物が生息し独特な生態系をつくっています。

モウセンゴケのなかまは葉の表面の毛先から粘液を出し、小さな虫をとらえて消化吸収します。このような植物を食虫植物といひ、赤い花をつけるトウカイコモウセンゴケは東海丘陵要素植物の一つです。



モウセンゴケトリバ



サギソウ



ヒメタイコウチ



トウカイ
コモウセンゴケ



ハッチョウトンボ♂



ミミカキグサ



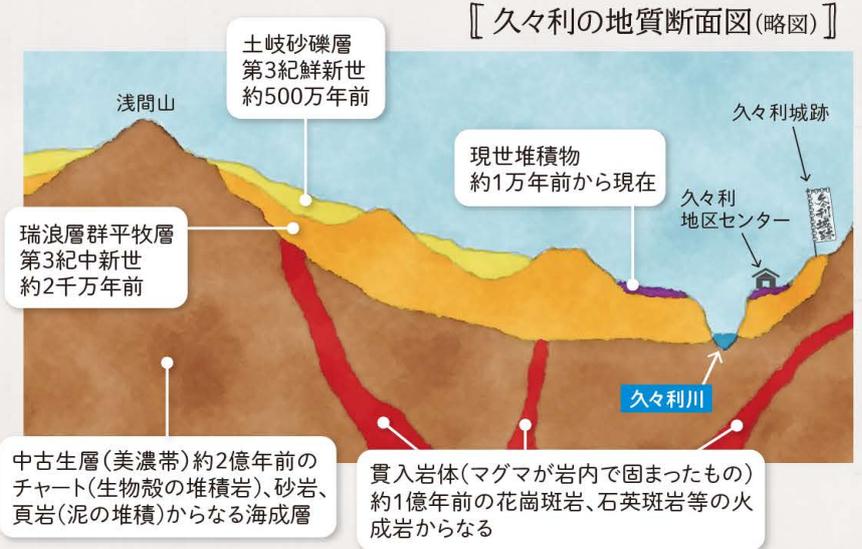
モウセンゴケ



ハッチョウトンボ♀

久々利の地質

美濃帯と呼ばれる中古生層の硬いチャート・砂岩・頁岩がらなりこの辺り一帯の基盤をなしています。その裾野には上部に堆積した新生代中新世の平牧層(サバ)、更にその上に鮮新世砂礫層が広く覆い現世の浸食を受けて丘陵を形成しています。所々に中生代の火成岩類の貫入岩体も見られます。平牧層からは木の葉・大型哺乳類の化石が、鮮新世の礫層中には桃山陶の原料となった粘土や鬼板(褐鉄鉱)などが見られます。



可児市指定木など

久々利地内の東海自然歩道沿いに、3種の市指定木(市指定天然記念物)をみることができます。また、指定木以外でも珍しい千本ヒノキが自生しています。



ハナノキ



フウ



ヒトツバタゴ



千本ヒノキ



浅間山山頂のチャート



薬師洞の火成岩の巨岩



木の葉の化石



砂礫層中の粘土層